



Little Diamonds

6

No.

2005年3月4日
発行：浦和レッドダイヤモンドズ

第14回県クラブユース(U-14)新人戦 **ジュニアユース** 2005シーズンは優勝でスタート!



今季初の公式戦を優勝で飾ったジュニアユース

決勝		
(2月26日・与野八王子グラウンド)		
浦和レッズ ジュニアユース	2	1-0 1-0
狭山ジュニア ユース	0	
(得点者 田仲、岸)		

前半20分、MF田仲智紀がFKを直接決めて先制



今年こそ全国へ。好発進

第14回県クラブユース(U-14)新人戦の決勝が2月26日、与野八王子グラウンドで行われ、浦和レッズジュニアユースは狭山ジュニアユースを2-0で破り、4年ぶり4度目の優勝を果たした。

同大会は2005シーズンになって初めての公式戦。二次リーグは2勝1敗の2位通過だったが、決勝トーナメントに入ってから安定した試合運びで、準決勝でPKによる1失点をした以外すべて完封勝ち。昨年、全国大会への出場がなかったジュニアユースだが、今季は幸先の良いスタートを切った。なおジュニアユースは、日本クラブユース選手権(U-15)埼玉県予選の一次リーグをシードされる(2、4面に関連記事)。



前半6分、FW武富尚紀がクロスボールをヘッドで落とす



落ち着いた守備で完封勝ちに貢献したGK慶徳優



後半14分、FW岸幸太郎がゴールを決め、2-0



後半8分、MF山田直輝が相手のドリブルを止める



後半14分、MF永田拓也が左クロスで2点目をアシスト

モチベーションを高く持って



ユース監督
広瀬 治

今季からユースの監督を務めます。下部組織のコーチになって5年目で、今のユースの1年生が中学1年生のときにジュニアユースのコーチになりました。ですから選手たちの特徴はよくわかっています。個を伸ばし、トップチームで活躍できる選手を育てたいと思いますし、U-18の大会でも結果が出るように頑張ります。大会で勝ち進むことは選手たちの自信にもつながりますし、上のレベルで試合ができるということですから、それがまた個人のレベルアップにもつながります。昨年のJユースカップでは、今年の新2、3年生が中心になっていましたから、ある程度戦えると思いますが、ほかのチームも上がってきますから、よりパワーアップしていかないとはいけません。

昨年もそうでしたが、トップチームの練習やサテライトの試合にユースのメンバーが参加することで、いろいろなことを感じてくれたでしょうし、ユースに戻ってチームメイトに伝えてくれたと思います。今年もそういう方式を採っていくつもりです。選手たちもモチベーション高く毎日を過ごしてください。

Reds on Record in Jr.Youth

大会名は Result参照		A	A	A	A	A	A
試合日(結果)		1/22	1/23	2/11	2/12	2/20	2/26
選手名		0-3	3-0	2-0	3-0	4-1	2-0
池田 涼司	DF						
井田 龍応	DF						
岩井 貴裕	DF						
岩井 陸	DF						
岸 幸太郎	FW		1				1
慶徳 優	GK						
▲田 大志	DF						
菅井 順平	DF						
高橋 峻希	MF		1				
高山 直人	GK						
武富 尚紀	FW			1		2	
田仲 智紀	MF						1
永田 拓也	DF			1	2	1	
沼 大輔	MF						
平野 又三	MF						
山田 直輝	MF		1				
藤田 圭介	DF						
和田 祐樹	MF						
池西 希	MF						
石沢 哲也	MF						
大里 康朗	DF						
加瀬 光	DF						
加藤 貴幸	MF						
北見 亮太	DF						
後藤 良平	GK						
齋藤 博	MF						
渋谷 将太	MF						
高瀬 優孝	FW						
高橋 秀行	DF						
利根川 良太	MF						
根本 和毅	MF				1	1	
長谷川 凌	DF						
原 豊寛	GK						
原口 元気	MF						
蒼本 啓太	FW						
森田 健介	MF						
山崎 大成	FW						

終始、余裕の試合運び ジュニアユース・新人戦決勝

初ゴールまでは、やや時間がかかった。前半20分、永田が倒されて得たペナルティエリア近くのFKを、田仲が直接ゲット。試合を支配しながらゴールを割れない展開が続いたが、ムードを一気に盛り上げた。後半14分には、永田の左クロスを中央で受けた岸が素早くシュート。相手を突き放した。

ジュニアユースチームの2年生は昨季からU-15大会にも出場しているメンバーが多く、特に中盤では余裕を持ったゲームメイクが持ち味。ラストパスがカットされても速い攻守の切り替えて、簡単には相手にゲームを作らせない。ロングアタックにいくところといかないところの



前半8分、DF大里康朗が相手のクロスをヘッドではね返す

ボールに対しても4バックが壁となり、中盤の速い戻りで主導権を取り返す、という試合運びで、決勝でも終始リズムを失わなかった。

どん欲に点を取りたい

ジュニアユース監督・名取 篤

選手たちが勝ちたいと思った結果が出ました。コンディショ的には良くありませんでしたが、つなぐ意識が強く出たのでいいサッカーができたと思います。あとは精度をもっと上げたいです。どん欲に点を取りにいき、攻撃も守備も全員で戦えるチームにしたいと思っています。

昨年から見れば攻守の切り替えが速くなりましたし、判断が良くなりました。チームとして伸びていると思います。

レベルアップ感じている

MF 高橋峻希(主将)

決勝は、満足いく試合になりました。大会全体としてコンディションは良かったと思います。去年のU-14大会で優勝できなかった悔しさがありますから、今年はリベンジです。

全国大会に行きたいですし、そのためにみんな練習も真剣にやっています。楽にパスがつなげるようになったし、自分たちのレベルが上がっていると感じます。



優勝で天狗にならない

DF 池田涼司



準決勝で菅井君がアンラッキーな退場になって決勝に出られなかったこともあって、チーム一丸になってやったのがこういう結果に出たと思います。

大会全体として安定した守備ができたと思うし、去年優勝できずに、これで終わっては駄目だという気持ちが練習の励みになっています。この優勝で天狗にならずに、全国大会目指してまた一からスタートです。

Action Result

JUNIOR YOUTH

A：第14回県クラブユース(U-14)大会(新人戦)
(与野八王子グラウンド、他)

二次リーグ第2戦、第3戦

- 1/22 0-3(前半0-1)東松山ベレーニア
- 1/23 3-0(前半1-0)越谷FC
- *二次リーグ組2位で通過(第1戦は5-0で勝利)
- 決勝トーナメント1回戦
- 2/11 2-0(前半1-0)クマガヤSC 同2回戦
- 2/12 3-0(前半1-0)武南ジュニア 同準決勝
- 2/20 4-1(前半2-0)三郷ジュニアユース 同決勝
- 2/26 2-0(前半1-0)狭山ジュニアユース

・は自由交代制のため先発、交代を問わず、その試合に出場したことを示す。スコアが同点ででないものはPK戦による決着。選手間の数字の合計がスコアと合わない場合はオウンゴール。

ユースが練習試合でトップに勝利！ ブッフバルト監督は再戦要求？

ユースチームは2月6日、大原サッカー場でトップの練習試合の相手を務め、前半0-0、後半2-1で勝利した。

トップチームは始動10日後で、これが初めての11人による試合。前半は、昨季のレギュラーが中心のメンバーで、さすがに攻められる時間が長かったがゴールは割らせず、逆にエスクデロがドリブルで持ち込み惜しいシュートを放つ場面もあった。

後半のトップチームは、大山俊輔ら新人選手を含むリザーブメンバーが中心。コンビネーションで勝るユースは、組織的な守備から速い反撃に転じ、まず西澤代志也の右アーリ

ークロスから鈴木竜基のボレーシュートで先制。その後、右サイドをえぐったエスクデロの折り返しを佐藤謙介が決めて2-0とした。その後1点を返されたが、トップチーム相手に2-1で勝利し、選手たちの気分は上々だった。日曜日とあって、会場には多くのレッズサポーターが見学に訪れていたが、ヤングレッズの元気の良さに拍手を送っていた。なお、負けず嫌いのブッフバルト監督は、広瀬監督に再戦を申し入れたとのこと。



ネネとボールを奪い合うFW小池純輝

鈴木からボールを守るエスクデロ



相手CKから南とヘディングで競り合う小松靖和



山田のボールを狙うMF萩尾勇真



田中にボールを渡さないMF金生谷仁



平川を背負いながらキープする西澤代志也

ユースコーチに堀孝史さん

(元レッズMF)

2005シーズンからユースのコーチに、元浦和レッズMFの堀孝史さん(37)が就任した。堀コーチは1992年に東芝からレッズに移籍。FWまたは攻撃的MF、守備的MFとして活躍。ひたむきなプレーでサポーターに大きな人気があった。レッズでJリーグ158試合に出場し11得点を挙げた後、99年、ベルマーレ平塚(現湘南)に移籍。02年からコーチとして昨年まで同チームの各カテゴリーで指導に当たっていた。

堀です。ベルマーレ時代には、最近の子どもたちは型にはめられていて、なかなか自分たちで何かをやることをしないと思っていたんですが、浦和に帰ってきて、選手同士でプレーについて話し合っていたり、「どうですか?」とコーチに聞いてきたりとか、みんなモチベーションが高いなと思いました。

育成が目的のユースですが、大会で勝ちながら覚えていくこともありますし、決勝の場などを経験することはトップに上がってからも生きてくると思います。僕自身、優勝したことがないですから(笑)、広瀬監督と協力して、いい選手を育てながら勝っていきたいと思います。よろしくをお願いします。



新ユースコーチ・堀 孝史

Action Schedule

YOUTH

スペイン遠征

- ・3月22日～30日
- ・MIC'05に出場
(MEDITERRANEAN INTERNATIONAL CUP 2005)

第26回浦和カップ高校サッカーフェスティバル

- ・4月2日～5日
- ・市立浦和高校Gなど

プリンスリーグ関東U-18

- ・4月10日から
- ・各地

Jr.YOUTH

2005群馬チャレンジカップ(U-13)

- ・3月26日～28日
- ・NTT関南スーパーグラウンド、他

CBC・中日新聞杯ジュニアユースサッカー2005

- (第14回愛知FC招待ジュニアユースサッカー大会)
- ・3月29日～31日
- ・瑞穂北陸上競技場、他

トップ相手にしっかり戦えた

ユース監督・広瀬 治

トップはコンディションが悪かったり、後半のチームはコンビネーションが悪かったりしましたが、こちら練習を開始して2週間ちょっとなので45分ハーフでは後半バテてくるな、と思っていました。でも、クラブのスタッフもみんな見ているし、ここでアピールすることは将来につながるんだよ、と選手たちに伝えたことがモチベーションを高くできたと思います。

自分の通用するプレー、通用しないプレーがわかっていい経験になったと思います。また、どんなチームが相手でもグラウンドに出ればしっかり戦うというところを見せてくれたことがうれしいです。トップのレベルの高さを感じて消極的になってしまうと良くないし、相手にも失礼だったので、そこはしっかりやってくれたと思います。

去年はこういう機会が一度だけだったのですが、ギド(ブッフバルト監督)からは「もう1回やるぞ」と言われました(笑)。

準決勝は4-1、ステップアップしたチームがGO!

荒天のため予定が1日延び、20日に熊谷文化スポーツ公園陸上競技場で行われた準決勝は、4-1の快勝。前半12分に山田の左FKに永田が飛び込んでヘッドで先制。23分には永田のスルーパスから武富がゴール。順調に得点を重ねた。

後半になっても攻勢は変わらず、15分に高橋の右ロングクロスを途中出場の蓑本が蹴り込んで3-0。最後は26分に、田仲のスルーパスから武富がこの日2点目を挙げた。

26分に菅井のアンラッキーな退場で10人になり、PKで1点を失ったものの、大きな崩れはなく新シーズン初優勝に王手をかけた。

準決勝

(2月20日・熊谷文化スポーツ公園陸上競技場)

浦和レッズ ジュニアユース	4	2-0 2-1	1	三郷ジュニア ユースFC
------------------	---	------------	---	-----------------

(得点者 永田、武富、蓑本、武富)



相手の攻撃に慌てず対処するDF 池田涼司



トップ下の田仲智紀はドリブルとタメで攻撃にリズムをつけた

◀前半23分、2-0と相手を突き放した武富尚紀のゴール



左サイドから攻撃の起点にもなったDF 加瀬光



FWもこなす山田直輝は守備的MFに入ると高いキープ力が生きる



後半15分、途中出場のFW 蓑本啓太がゴールを挙げる



守備ラインの中央で1年生の両サイドバックをまとめたDF 和田祐樹



◀DF大里康朗は何度も右サイドを上がった



キャプテンのMF高橋峻希は右からゲームを作る